
給食用野菜廃棄の現状

— 感染症第二波に備えて —

二班 中村悠人 常本実花 高原奈穂

目次

▷ 新聞記事

▷ 記事要約

▷ 現状分析

▷ 現行の対策の問題点

▷ 求められる対策

▷ 参考文献

新聞記事

■「心込めて…」 「地元の子供のため、心を込めて育ててきた。本当につらい」。東京都足立区の農家、宇佐美一彦さん（58）がつぶやく。手にしたのは、土から抜いたばかりの青々とした小松菜。種まきから2か月で迎えた収穫期に廃棄し、ビニールハウスの脇に山積みにした。約4年前から、給食向けの野菜を約5200平方メートルの畑で栽培。化学肥料を使わない葉物野菜やナスを、区内の小中学校約30校に納入している。だが、新型コロナウイルスの感染が広がり、3月2日から休校になると、給食用の野菜約1・5トンを廃棄することに。先月下旬には、さらに約1トンを捨てた。廃棄した野菜は枯れ、土にかえるまで放置するしかない。5月分も育てているが、7日には区教育委員会から、月末まで休校を延ばすと連絡があった。知人に販売したり、直売所に並べたりしているが、廃棄の可能性があるという。畑では6月の収穫に向け、ナスの花が咲き、谷田豆のさやは膨らみつつある。宇佐美さんは言葉を絞り出した。「また捨てることにならないか不安だ。ただ、給食が再開した時、『野菜がない』というわけにはいかない。無事に子供らの口に入るように、祈るような気持ちで育てている。」

■売り上げ2億円減 感染拡大後、廃棄寸前のよく品の架入れを探すインターネット掲示板に、悲痛なメッセージが連なる。「助けてください」「食べ物を捨てたくない」一。業務用だし食品の製造販売を手がける「フタバ」（新潟県三条市）も、書き込みをした一社。小学校の体育館ほどの広さがある倉庫を訪ねると、高さ約7メートルまで段ボール箱が積まれていた。中身は、だしパックや削り節で、9日後に廃棄しなければならない昆布もあった。主な取引先の飲食店やホテルは軒並み休業し、4月の売り上げは前年同期の約2億円減。工場勤務する従業員140人のうち100人も休ませている。4月下旬、掲示板に「利益なしの特別価格で販売します」と書き込んだが、引き合いはない。規格外品などが並ぶサイトへの出品も考えたが、商品価値を落としてしまいそうで踏み切れない。商品の多くは賞味期限が半年程度の乾物で、当初は廃棄の心配をしていなかった。「感染の影響が、こんなに長期化するとは思わなかった」。江口晃社長(37)が漏らした。

■通販サイトに活路 ニンジン、ダイコン、タマネギ……。千葉県印西市の農家で、野菜卸売業を営む三浦大輝さん(24)が大きさや傷を確かめながら段ボール箱に詰め込んでいた。廃棄寸前だった野菜の出荷作業を終えると、「少しでも農家の力になれて良かった」と笑顔になった。東京都などに緊急事態宣言が発令された4月7日の翌日、三浦さんは休業を決めた取引先の百貨店で、売り場に残った大量の食品を目にした。心配になってすぐに、仕入れ先の印西市の農家に電話をした。「捨てなければならないかも」。休校や飲食店の休業で、約2トンの野菜が行き場を失ったという。三浦さんがニンジンの写真とともに、ツイッターで窮状を訴えると、共感した人が次々に拡散し、「購入したい」との返信が相次いだ。

記事要約

コロナの影響により、様々な施設（学校、ホテル、飲食店など）が休業

→それらの施設と契約している農家やメーカーが造った食品が大量に余り、廃棄を避けるための対応に追われている

本文中に取り上げられている**給食用野菜**に注目



どうすれば給食用野菜の廃棄を減らすことができるか

現状分析

コロナ感染者数が低下



各地で学校再開の動き

(大阪は6月1日、神奈川は6月8日を予定)

しかしコロナ第二波や新しい感染症の可能性

野菜の廃棄によるCO2の排出と経済的損失

小松菜農家の門倉さんの例

門倉さんは毎月小松菜を3.5トン生産し、そのうち3トンを学校給食向けに生産していた。しかしコロナの影響により小松菜は出荷停止となり、インターネット販売や直売会を実施したものの、売れたのは生産した量の半分以下だった。

<https://www.sankeibiz.jp/business/news/200506/bsm2005060650001-n1.htm>

給食用小松菜3トンのうち1.5トンを廃棄したとすると…

○木草1Kgの廃棄によるCO₂の排出量は約0.498Kgなので1.5トン廃棄すると…

約0.75トンものCO₂を排出

→自動車で2700Km走った時に排出されるCO₂の量と同じくらい

○小松菜500gあたりの卸売価格が162円だと仮定し1.5トン廃棄すると…

48万6000円の損失

オンラインによる販売

「うまいもんどットコム」内において発注を受けたがキャンセルとなった食品・食材を販売

農林水産省がサイト運営費や送料などを支援

うまいもん 食べて応援！学校給食キャンペーン

学校給食の停止にともなう
**食べて応援！
学校給食**
キャンペーン

新型コロナウイルスの影響でお困りの食品事業者の皆さまへ

お問い合わせはこちらから

全国の給食関連事業者さんが
困っています。
応援してください！

本キャンペーンの対象商品は、すべて送料無料です！

新型コロナウイルス感染症対策に伴う休校で、学校給食が取りやめになったことを受け、全国の生産者や給食関連事業者の皆さまが多大な影響を受けています。

うまいもんどットコムでは、全国の困っている給食関連事業者を支援するため、未利用食材の購入支援キャンペーンを実施しております。みなさまの多くのご質問とご協力をお願いします。

【給食応援】イワシ梅寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍 1,685円(税込) 販売中 在庫数 1193	【給食応援】イワシおかか寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍 1,663円(税込) 販売中 在庫数 1166	【給食応援】イワシ甘露寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍 1,663円(税込) 販売中 在庫数 167	【給食応援】イワシ生寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍 1,598円(税込) 販売中 在庫数 434
【給食応援】イワシ梅味噌寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍	【給食応援】イワシトマト寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍	【給食応援】イワシミぞれ寒 10切入 (1切40~50g) x2P ※冷凍	【給食応援】サケ塩焼 10切入 (1切40g) x2P ※冷凍

路上販売

一般の人たちに向けて通常よりも低価格で食材を販売



↑静岡県富士宮市で行われた販売会の様子

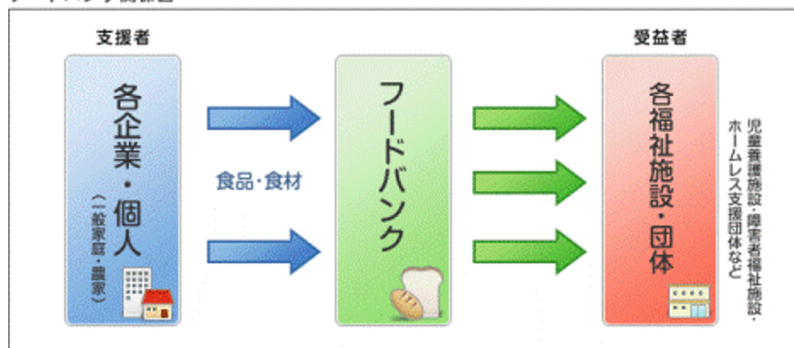
フードバンクへ提供

フードバンクとは…

品質に問題がないにもかかわらず、市場で流通することができなくなった商品を企業から提供してもらい、生活困窮者などに提供する活動のこと

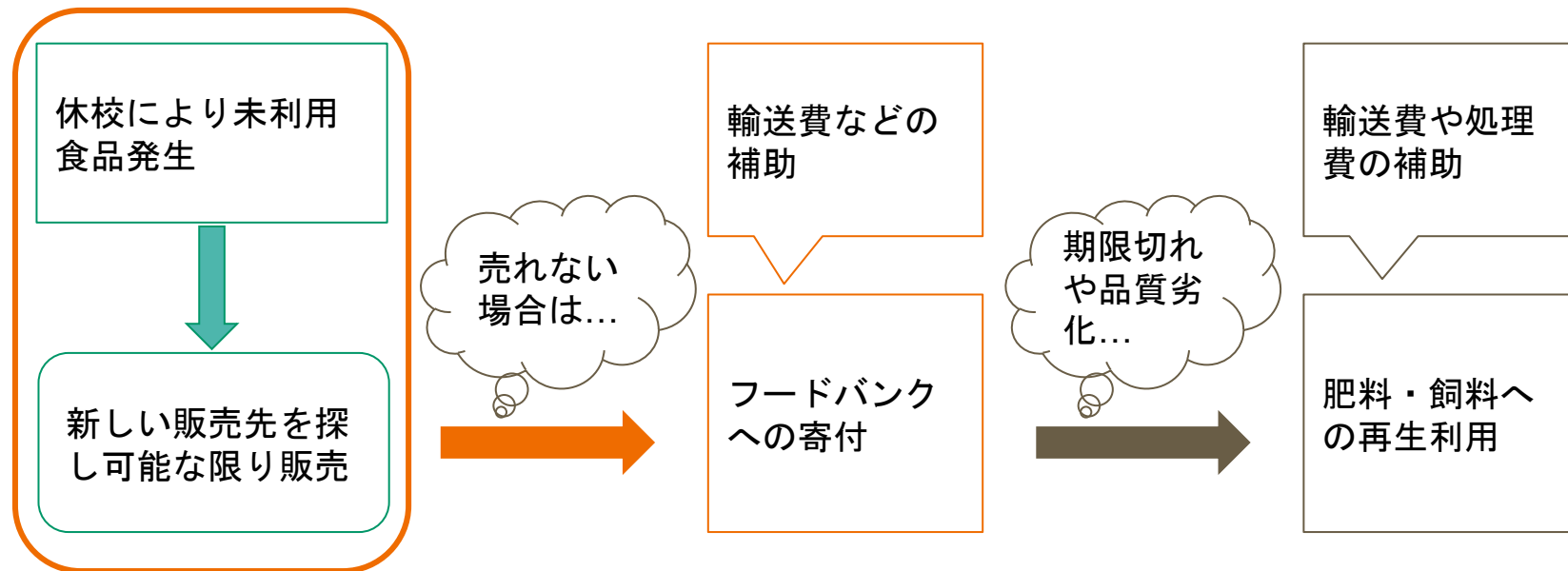
販売しきれなかった食材を提供することで廃棄を回避

フードバンク関係図



現行の対策の問題点①

▷コストに見合う収益がなければ廃棄するしかない



↑ 収益につなげるにはこの段階で処理する必要がある

▷ 売れ残った食品を処理する際にかかる費用

- ・ 廃棄物として処理した場合

⇒ 横浜市の事業系一般廃棄物の処理費用は13円／1キロ

- ・ フードバンクへの寄付や肥料などに転化する際にかかる輸送費への補助

⇒ 定額 7000円（／1トン以内）

- ・ 関東圏の運送会社の1トントラックを利用した場合の輸送費の相場

⇒ 20km 1万円～1万7千円

50km 1万5千～2万3千円

補助金を利用した場合でも1万円前後はコストがかかる可能性がある

▷ さらに...

余剰食品の提供に際する衛生管理などの手間

例えば、フードバンクに食品を提供する場合

→衛生法、JAS法、景品表示法、廃棄物処理法、消費者安全法

...などに対応する必要がある。^{*1}

⇒収益を考慮しても割に合わない可能性がある。

*1農林水産省フードバンク調査報告書

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank/pdf/data1-3.pdf

参考

- ・ 転売への懸念

（平成 28 年 1 月に発覚した愛知県内の産業廃棄物処理業者による廃棄食品の転売事件）

- ・ ブランド管理の必要性（一般消費者向け商品の場合）

ブランド名がパッケージに明示されていることが多く、最終消費者の個人への提供時もパッケージのままの形態である場合がある

ジ
の影響

{ ・ ブランドイメー

・ 正規品の価格へ

現行の対策の問題点②

▷販売に至るまでのタイムラグ

- ・フードシェアリング
- ・一般小売業者

販売先選定 → 梱包 → 輸送 → 販売

生鮮食品は、販売までのスピードが肝要。

→商品価値を失う前に別の販路を確保しなくてはならない

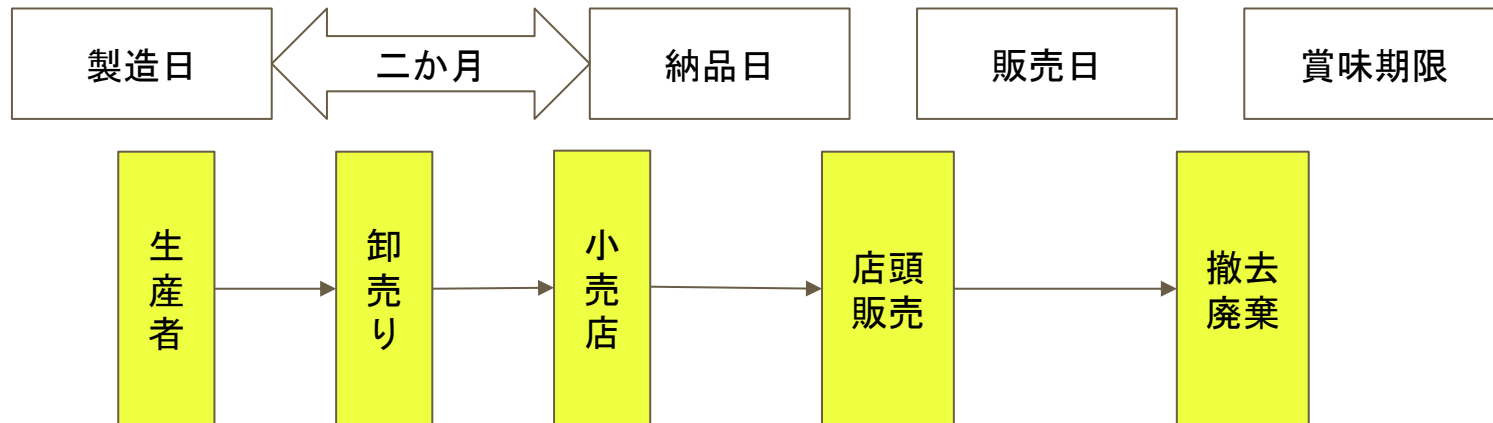
⇒非常時に慌てて探すのでは手遅れになる

参考

・ 三分のルール

賞味期限の3分の1が経過する前に、卸業者が小売店に納品しなければならないというもの。（法的な拘束力はない）

例) 賞味期限が6か月の場合



現行の対策の問題点③

▷ 需要と供給のマッチング

- ・ 給食用に大量かつ均一に作られた製品



サワラ 6kg 8294円



小松菜10kg 5400円

給食再開について

緊急事態宣言 解除＝給食再開???

自治体によって対応はバラバラ。。。

例) 世田谷区・・・第4週以降に再開予定

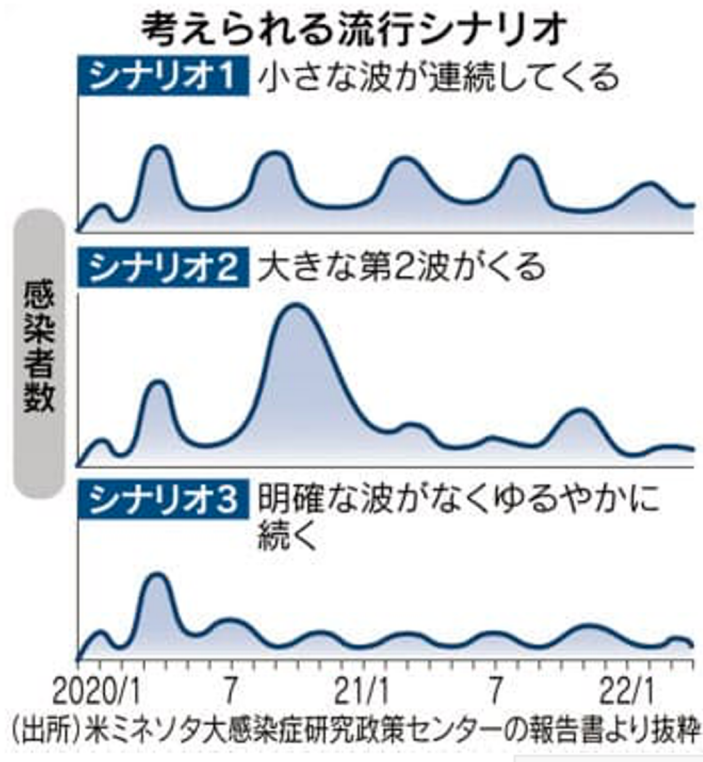
港区・・・6/7から再開予定

中野区・・・6/8から再開予定

あくまでも予定であって確定ではない

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/tokyo/list/202005/CK2020052302000119.html>

給食の脅威 コロナ第2波



いずれにせよ、、、

1年半～2年の間

休校、給食停止のリスクあり！

＝今の対策の課題を解決する施策が必要

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO59133270V10C20A5EA2000/>

現状の課題まとめ

1. コストに見合う収益がなければ廃棄するしかない
2. 事後的な対応では遅い（野菜＝新鮮）
3. 大量かつ均一な供給法＝家庭の消費形態に合わない

給食野菜卸農家にとっては

2 & 3 の課題がより重大！

1 では収益ゼロ or マイナス

求められる対策① 農家を守る

- ・ 現行の制度を着実に施行
- ・ 農家への制度についての周知
(制度例)

「持続化給付金」事業継続に必要な資金を支援

園芸品目の次期作支援、生産現場の労働力確保対策 etc..

<https://www.agrinews.co.jp/p50682.html?page=1>

所管省庁	事業名	主な内容
経営支援	経産省 持続化給付金	大幅に減収した法人に最大200万円、個人事業者に同100万円を給付
	農水省 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業	体質強化の要件を満たせば、出荷頭数に応じて1頭2万円以上を交付
営農継続	農水省 農家向けの金融支援	各種資金で実質無利子・無担保化などの優遇措置
	農水省 高収益作物次期作支援交付金	種苗購入などに10% 5万円、販売促進の取り組みごとに同2万円を支援
労働力確保・維持	農水省 発生畜産農場などの経営継続対策事業	代替人材確保の経費を補助。酪農経営では1人・1日当たり上限1万5000円。肉用牛経営などは同1万4000円
	農水省 農業労働力確保緊急支援事業	代替人材雇用のかかり増し費用、求人費用、J・A・学生による接農経営を支援
	入管庁 外国人技能実習生らの再就職支援	他業種から農業分野への切り替え可能に
厚労省	雇用調整助成金	農家を含む事業主に、休業させた労働者への休業手当の一部などを助成
	小学校休業等対応助成金	農家を含む事業主に、休校に伴い有給の休暇を取得させた労働者の賃金相当額の一部を助成
販路確保	農水省 和牛肉保管在庫支援緊急対策	牛肉の在庫解消へ食肉卸が計画に基づき販売した場合、1% 1000円助成
	農水省 国産農林水産物等販売促進緊急対策	需要が停滞している対象品目について、小中学校が給食に活用時定額補助
	農水省 公共施設の花き活用拡大支援事業	自治体、企業の花材購入費を半額、資材や運賃などは全額を補助

求められる対策②

事前に代替サプライチェーンを確保する

給食野菜にもハザードマップが必要

被害予測地図＝自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化

表示する情報を選ぶ



洪水(想定最大規模)

洪水(計画規模)はこちら



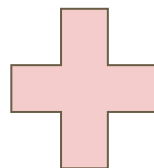
土砂災害



津波



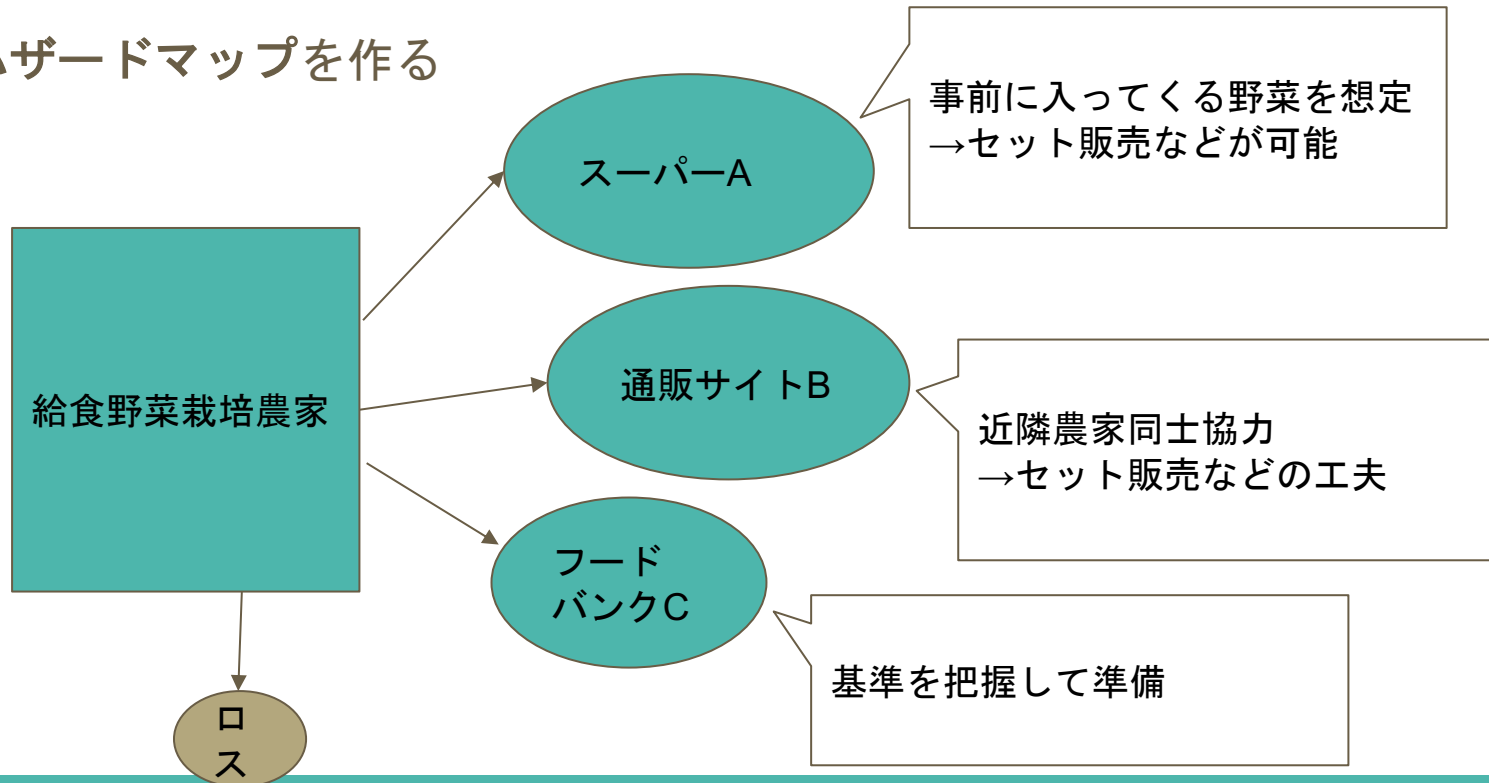
道路防災情報



求められる対策②

事前に代替サプライチェーンを確保する

給食野菜のハザードマップを作る



求められる対策②

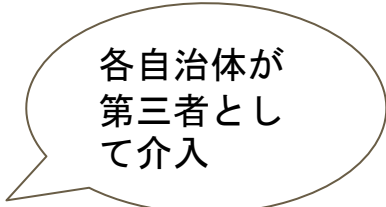
事前に代替サプライチェーンを確保する

地縁の活用

＝商工会、農協、学校給食委員会、輸送業者等で協力して準備

→休校の決定と同時に、代替サプライチェーンへ切り替え

→収益を保ちながら、フードロスを防ぐ



各自治体が
第三者として
介入

参考文献1

- ・農林水産省フードバンク活用の促進対策及び再生利用の促進対策 https://www.j-chicken.jp/pdf/20200312_01.pdf
- ・農林水産省フードバンク調査報告書 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/foodbank/pdf/data1-3.pdf
- ・うまいもんドットコム「食べて応援！学校給食」<https://www.umai-mon.com/user/collection/1345>
- ・鶴田運送店料金表 http://www.tsuruta-unso.com/?page_id=13
- ・登録再生利用事業者からみた食品リサイクル肥料
https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/attach/pdf/161227_7-79.pdf
- ・ARUHIマガジン 食品の三分の一ルールとは？無駄に捨てられないよう皆gすぐできる事 <https://magazine.aruhi-corp.co.jp/0000-3277/>
- ・東京新聞 <新型コロナ>小中学校 分散登校で来月再開 世田谷や港区など緊急事態解除前提<https://www.tokyo-np.co.jp/article/tokyo/list/202005/CK2020052302000119.html>

参考文献2

世界にコロナ「第2波」懸念 パンデミックまだ序章<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO59133270V10C20A5EA2000/>

Sankei Biz 給食向け野菜・牛乳の生産者に打撃 新型コロナで大量廃棄の瀬戸際に
<https://www.sankeibiz.jp/business/news/200506/bsm2005060650001-n1.htm>

共同通信 給食食材、30分で売り切れ 静岡・富士宮で販売会https://news.goo.ne.jp/article/kyodo_nor/life/kyodo_nor-2020030801001647.html

農林水産省 「食べて応援学校給食キャンペーン」特設通販サイトの設置について
<https://www.maff.go.jp/j/press/shokusan/ryutu/200316.html>

環境市民 地球温暖化とごみ減量 http://www.kankyoshimin.org/modules/library/index.php?content_id=114

東京青果株式会社 販売値段報告書 <https://www.tokyo-seika.co.jp/common/pdf/soba/yasaso.pdf>